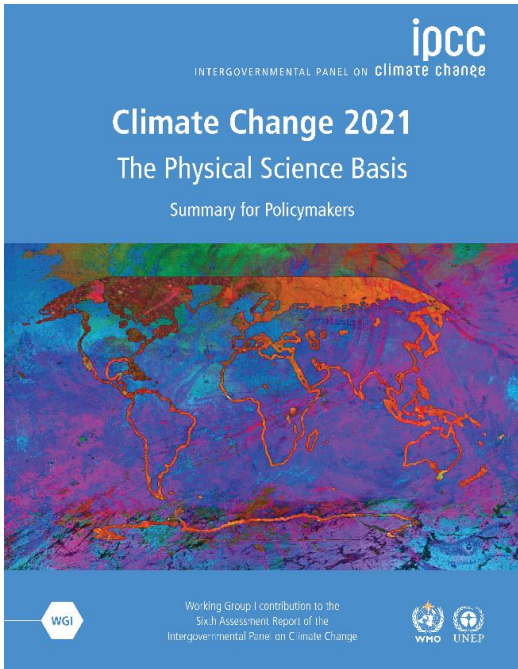


気候変動に関する政府間パネル第6次評価報告書等について

令和3年11月18日 気候変動に関する懇談会（第5回）

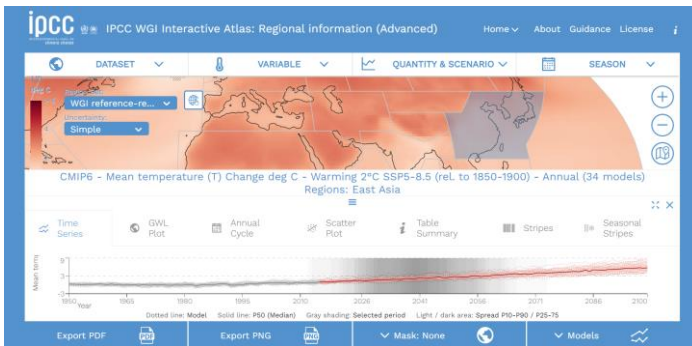


- 2021年8月9日公表
- 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第54回総会（2021年7月26日～8月6日）にて政策決定者向け要約（SPM）承認、報告書本体等受諾
- 報告書の承認を伴う総会がオンラインで実施されたのは初めて

□ 特徴

- 「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」と述べられ、地球温暖化に対する人為影響について、初めて「疑う余地がない」と評価
- 平衡気候感度の不確かさの幅の低減
- イベントアトリビューションの発展などを踏まえた極端現象の評価
- 地域レベルの評価の充実

「インタラクティブ・アトラス」の提供：インターネット上で利用者が様々な条件を指定して任意にデータを視覚化可能



インタラクティブ・アトラスで東アジアの気温上昇予測を示したもの

- 気象庁HPにて、SPM和訳等を公開中

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html>

今後の予定

2022年2月

IPCC第55回総会
AR6 WG2報告書公表

2022年3月

IPCC第56回総会
AR6 WG3報告書公表

2022年9月

IPCC第57回総会
AR6 統合報告書公表

- IPCC AR6 WG1報告書の解説記事等で、国内の気候変動について「日本の気候変動2020」が引用された（例）

NHK みんなでプラス 持続可能な社会へ“地球のミライ”は私たちの手に Vol.2 IPCC報告書を解説②地球温暖化で日本の気象は？

<https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0019/topic038.html>

地球温暖化によって、将来の日本の気象はどう変化するのでしょうか？

気象庁と文部科学省が行った猛暑日や大雨に関する予測の結果や、国立環境研究所の研究グループが行った海面水温についての将来予測を8枚のイラストで解説します。

日本気象協会 気候変動コンサルティングレポートVol.5

企業への気候変動影響と影響評価方法例のご紹介 ～IPCCの最新報告書から読み解く企業への気候変動～

<https://www.jwa.or.jp/news/2021/09/14672/>

陸地での極端な降水量の頻度と強度は、世界全体でみると気温上昇に伴って増加することが予測されています（AR6/WG1）。それでは日本国内ではどのような変化が起きるのでしょうか。「日本の気候変動2020」によると、日降水量100mm以上の大雨の日数は、地域によって異なりますが、20世紀末（1980～1999年平均）と比べて全国平均で約1.4倍の増加が予測されています。

Yahoo!ニュース IPCC第1作業部会第6次評価報告書のポイント（竹村俊彦委員）

<https://news.yahoo.co.jp/byline/takemuratoshihiko/20210810-00252451>

しかし、これ以上対策を遅らせるよりも、今すぐに強力な気候変動緩和策を進めれば、20年後以降には大きな違いが出てくることも、今回の報告書で示されています。5つの将来予測のパターンのうち、最も対策を行う場合には1.6度の気温上昇で抑えられて、対策が緩いと4.4度も昇温すると科学的に予測されています。例えば、「日本の気候変動2020」には、全国平均の猛暑日の日数が、4度昇温のパターンになってしまうと、100年間で約16倍にもなってしまうことが予測されている一方、2度昇温で抑えられると約3倍にとどまることが示されています。この数値を見ると、選択の余地はないですね。

IPCC第1作業部会第6次評価報告書のポイント

竹村俊彦 | 九州大学応用力学研究所 主幹教授
8/10(火) 7:00



(写真:アフロ)

2021年8月9日に、IPCC第1作業部会の第6次評価報告書が公開されました。私は、前回の第5次評価報告書では執筆者の1人として携わりましたが、今回は少し外から報告書作

- 気象庁の「気候講演会」と環境省の「IPCCシンポジウム」を、IPCC AR6 WG1報告書をテーマとして合同開催（オンライン）
- 気象庁と共同でWG1を担当している文部科学省も共催
- 下記URLにて、録画講演等の掲載と、座談会のリアルタイム配信（事前登録不要）

<https://www.gef.or.jp/news/event/211029ipccsympo/>

※講演者等について敬称、所属略

◆ 11月22日（月） 10:30～（最長12:00まで）

「座談会」をリアルタイム配信：執筆者らが報告書の特徴などについて意見交換

参加者：田辺 清人（IPCC TFI共同議長）、江守 正多（WG1第1章LA）、
小坂 優（WG1第3章LA）、石井 雅男（WG1第5章LA）、
高薮 出（WG1第10章LA）、佐藤 正樹（WG1第11章LA）

以下は10月29日（金）より掲載中

◆ 特別録画講演

・ヴァレリー・マツソン=デルモット（IPCC WG1共同議長）※日本語字幕入り

◆ 動画

高薮 出、今田 由紀子、川瀬 宏明 『IPCC AR6 WG1における地域の記述と「日本の気候変動2020」』

※「日本の気候変動2020」を中心に、日本国内に焦点を当てた気候変動に関する解説動画

◆ 録画講演

田辺 清人 『IPCCの概要、今期の活動及び今後』
小坂 優 『気候変動への人為的影響』
石井 雅男 『二酸化炭素排出・温暖化と海の変化』
佐藤 正樹 『変化する気候における極端気象・気候』

